

令和 4 年度
北海道立総合博物館協議会
アイヌ民族文化研究センター専門部会
議 事 録

日時：令和 4 年 1 2 月 2 1 日（水） 15 時 00 分開会

場所：北海道博物館 講堂

令和4年度 北海道立総合博物館協議会
アイヌ民族文化研究センター専門部会議事録

会議名	令和4年度 アイヌ民族文化研究センター専門部会
開催日時	令和4年12月21日（水）15時00分～16時20分
開催場所	北海道博物館 講堂
出席者	<p>【委員】 中村吉雄委員（部会長）、小川悠治委員、白石英才委員 以上3名出席</p> <p>【事務局】 石森秀三北海道博物館長、塩谷直樹文化局文化振興課総括主査兼企画調整係長、日置傑アイヌ政策推進局アイヌ政策課主任 ほか</p>
欠席者	【委員】 酒井奈々子委員、関根真紀委員、村木美幸委員
傍聴者	0名
議 題	<p>(1) 令和4年度第1回北海道立総合博物館協議会実施報告</p> <p>(2) 令和3年度アイヌ民族文化研究センター事業実施報告</p> <p>(3) 令和4年度アイヌ民族文化研究センター事業経過報告</p> <p>(4) 令和5年度アイヌ民族文化研究センター年度計画（案）</p> <p>(5) その他</p>

※・単なる相づち及び言い直しなどは、原則として割愛する。

・内容に応じて《意見・提案》、《質疑応答》等の見出しを便宜的に作成した。

1 開会

甲地研究主幹：ただいまから令和4年度北海道立総合博物館協議会 アイヌ民族文化研究センター専門部会を開催いたします。開会にあたり、北海道博物館 館長の石森より、ご挨拶申し上げます。

2 館長あいさつ

石森館長：本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。
(以下、省略)

《配付資料の確認》

甲地研究主幹：続きまして、本日の配布資料の確認をさせていただきます。
(以下、配布資料について説明)

3 北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会委員紹介

甲地研究主幹：本日出席いただいております委員の皆様のご紹介をさせていただきます。なお、今回は3年ぶりの開催となりますので、一言ごあいさつをいただければと思います。
(以下、名簿に沿って専門部会委員を紹介)

中村部会長：イランカラプテ。北海道アイヌ協会副理事長、千歳アイヌ協会会長の中村です。3年ぶりの開催ということで、いろいろな意見はあるかと思いますが、忌憚のないご意見をお願いします。あとは進行の中でお話ししたいと思います。よろしく願いいたします。

小川委員：イランカラプテ。標津アイヌ協会会長の小川です。北海道アイヌ協会理事もしております。アイヌの血の濃さからすると薄く、アイヌ協会の会員の資格としてどうなのかと、自分なりに苦労している点があります。しかし、これは歴史的なものでもあります。クナシリ・メナシの戦いの頃から、迫害などもあり、文化なども失われて、今あるのは遺跡など、という状況です。そして、いろいろな民族が混ざって混血が続いてきました。私も和人系が3/4以上入っているのですが、意識としてはアイヌを選んでおります。

専門部会と言っても、私自身専門的な知識は持ち合わせておらず、先日事前に送付頂いた資料に目を通し、諸先生を目の前にして、こういう場に出て大丈夫なのかという気もしています。ただ、専門部会の前に「久保寺逸彦」展も見させていただきましたが、こうしたことをいかにして職員の皆様が一生涯懸命やっているか、それを評価するという視点で見させていただければと思います。ご指導の程よろしくお願いいたします。

白石委員：イランカラプテ。この度は、アイヌ民族文化研究センター専門部会の委員をおおせつかりまして、非常に重い役目で身が引き締まる思いです。

新任ですので、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は長野県出身で、縁がございまして、千葉大学の大学院で中川先生のもとアイヌ語を勉強していました。北海道内は色々と回りましたが、一番通ったのは沙流川筋で、聞き取り調査を行って来ました。中村委員のおられる千歳は中川先生に連れられて何度か伺いました。

専門は言語学で、音韻論を研究しておりますが、アイヌ文化そのものに関しても、佐々木利和先生に教わったりすることもありました。サハリンの先住民族のニヴフの研究に携わることもあり、サハリン州郷土博物館に1年間研究員として置かせてもらい、ニヴフ語の研究をしたこともありました。サハリン州郷土博物館は北海道博物館と研究交流をしていることもあり、科研のプロジェクトなどで博物館の方々と一緒に調査に行ったりすることもありました。今は情勢的にロシアに現地調査に行けません、まだ話者はおりますので、行けるようになったら調査も再開したいと考えています。

専門部会のお役に立てるように尽力しますので、よろしくお願いいたします。

甲地研究主幹：続きまして、北海道博物館の職員を紹介させていただきます。
(以下、名簿に沿って博物館出席者を紹介)

甲地研究主幹：続きまして、北海道環境生活部の職員を紹介させていただきます。
(以下、名簿に沿って本庁出席者を紹介)

甲地研究主幹：続きまして、本専門部会の事務局を紹介させていただきます。
(以下、名簿に沿って博物館出席者を紹介)

《協議会の公開》

甲地研究主幹：なお、本専門部会は、許可、認可等の審査、行政不服審査、紛争処理、試験に関する事務等、北海道情報公開条例第 26 条ただし書きの規定に該当する審議内容はございませんので、北海道立総合博物館協議会運営要綱第 3 条に基づき公開の取り扱いとさせていただきます。

甲地研究主幹：それでは、このあとの議事進行につきましては、中村部会長にお願いします。よろしく願います。

《部会長あいさつ》

中村部会長：中村です、改めてよろしく願います。

先住民族アイヌと明記され、徐々にではありますが国民の理解が少しずつ進んできていると感じています。先頃、アイヌ民族文化財団に、副読本の配布についての相談があり、その際、ただ、配布するだけではダメだと意見をお伝えしました。千歳の末広小学校では、約 29 年間小学校 1 年～6 年生までアイヌ文化を学んでおり、こういう場所をしっかりと研修してほしいということを行ったところ、その通り調べて、NHK も入れて取り上げていただいたということがありました。その件で、財団としても、このように声を上げないとダメだと改めて理解しました。

29 年間継続する上で、地元のアイヌである野本ご夫妻の努力がありました。地域の町内会長、建築会社の社長、森林組合長など、さまざまな方の協力で、末広小学校はチセのある学校になりました。野本ご夫妻が、地元のアイヌとして自分の子供が学校にいるにもかかわらず、差別などにも怯むことなく、アイヌということを通してきた結果かと思っております。東京での副読本の会議で、末広小学校のアイヌ文化の担当の先生が早速さまざまな提案をしました。千歳市役所のアイヌ政策推進室の担当者も招かれて、千歳の活動の説明をしてきました。そういう中で、一つ一つ地元の協会が声を出して、北海道全体で考えて、ウポポイを少しずつでもよくしていくという発想がないとダメだと思いました。

また、今日の会議でも委員の先生方から色々な発想を聞いて、北海道博物館を良い博物館に育て上げていくということが重要だと考えています。

4 議題

議題(1) 令和 4 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会実施報告

中村部会長：それでは、議題(1)に入ります。議題(1)「令和 4 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会実施報告」について、説明をお願いします。

甲地研究主幹：お手元の資料 1「令和 4 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会議事録」、資料 2

「令和3年度 博物館評価実施報告書」、資料3「令和3年度 協議会評価調書(案)」を使って説明いたします。

(以下、資料1、資料2、資料3をもとに説明)

中村部会長：ありがとうございます。9月21日に開催された、親会である協議会では、私からは百年記念塔の解体の件について質問し、石森館長からも担当するのは道庁である旨の回答をいただいております。また、他から聞いた話では、5区選出の和田先生が百年記念塔を維持していくべきと発信したようですが、道庁の考えとしては老朽化し危険であるということで変わらず、現在は工事の音がしているという状況です。まずは、資料1について、委員のみなさまから何かご意見などございますか。

(特になし)

中村部会長：資料2、資料3は博物館の活動とその評価についてですが、評価というのは大変なことです。私も千歳の緑小学校で評議員をやっていたとき、先生たちは生徒に教えるのに、自分の評価が低くて授業になるのかと指摘をさせられました。自己採点が自分に対して甘い、それが甘かったら生徒に教えることができるのか、ということを考えてことがあります。あまり自分は優秀だと思ふことはばつが悪いだろうけれど、あまり低いのもダメだろうということも指摘しました。

博物館の自己評価もなかなか厳しいものがありますが、道民の期待に応える気概が必要だと思っております。協議会の方でも厳しい意見が多いですが、それは良いことだと思っており、自己評価を惜しみなく進め、職員も気を引き締めてやるのが事業だと思っております。私自身、建築会社の経営をやっているけれど、やれることをひたすらやっていったら、良い結果につながったことがある。やりすぎることはいいことだと、評価もやりすぎても良いと思っております。

議題(2) 令和3年度アイヌ民族文化研究センター事業実施報告

中村部会長：引き続き議題(2)「令和3年度アイヌ民族文化研究センター事業実施報告」の説明に進んでください。

甲地研究主幹：お手元の資料2「令和3年度 博物館評価実施報告書」、「要覧」を用いて、アイヌ民族文化研究センターの研究主幹として、昨年度の事業と自己点検評価の結果についてご説明申し上げます。

(以下、資料2、要覧をもとに説明)

中村部会長：ありがとうございます。アイヌ民族文化研究センターの事業実施報告がありました。私自身、長万部での巡回展を観覧する機会があり、良い開催だったという印象を持っておりました。ご質問、ご意見をお願いします。

白石委員：資料2の「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」で、自己評価がBとなっており、「なお達成していない課題があること」と記載があります。項目を見ると実現できなかったものとして、海外交流を見合わせたということが該当するかと理解しましたが、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いても、現在航空券代が高騰しております。私自身、学生をタイに出張させようとしたら、これまでは10万円程度で行けていたのが、20万円ほどになっておりました。その辺りはコロナが明けても問題になりそうです。その場合、オンラインでの研究交流の道を探るなどはいかがでしょうか。

小川アイヌ民族文化研究センター長：第二次自己評価をBにした大きな理由についてですが、コ

ロナについては不可抗力であり、評価をそれによって下げるというわけではありません。いろいろな業務に取り組みましたが、資料の公開については一部先送りせざるを得なかったなど、できなかった業務がありましたので、評価者としては何ができなかったのか、課題をはっきりさせるといって意味で、あえてBにしました。

それとは別に、海外の研究交流については、コロナ禍が収まったとしても、航空券代が高くなっているということ、特にサハリンの場合は日露関係などの大きな問題があると思っております。カナダのアルバータ州との交流に関しては、航空券の問題はありますが、オンラインでのやりとりも可能なため、その選択肢はあると思っております。サハリンについては、国や地域との友好関係を回復することが大きな課題となっております。

白石委員：ありがとうございます。

小川委員：計画と評価は難しいところです。博物館の場合は、なおさら一般の事業と違って難しいと思います。それだけに、自己評価の質をいかに高くするか、ということが求められるところだと思います。例えば、「7 施設及び周辺環境の整備」ではコロナ禍の影響でCになっていますが、コロナはこれから収まるかどうか、ということもなかなか難しいので、それを踏まえて事業を進めていかなければならないと思います。そういう意味で、いかにして事業を充実させるか、結果で周りの人に納得してもらえるか、そういうことが大事かと思っております。そのために、担当の職員さんがいかにして評価の質を良くするかということに期待しています。博物館だと一般的な事業と違って、一生懸命やっても成果がでるかは難しいので、自己意識を高く持って頑張ってもらいたいです。

また、10万円の航空券が20万円になった話もありましたが、道も経営状況が厳しい中で、予算関係で窮屈な思いをするようなこともあると思っております。事業の実施にあたって予算の問題が生じていないのか、その辺を率直にお聞かせ願いたいと思っております。予算が窮屈であるならば、それを博物館だけで言うのではなく、他の組織関係も含めて、充実させていただきたいという外部からのバックアップも必要かと思っております。

小川アイヌ民族文化研究センター長：予算については、確かに道の財政全体が厳しい中で運営していますので、航空券代が倍になったから海外研究費を倍にするということではできず、与えられた予算の中でやりくりせざるを得ない状況です。展示の予算一つをとっても、潤沢についているわけではありません。昨年度事業で報告した「アイヌの暮らし」展も、約19,000人の来場者が入ったと説明しましたが、これはアイヌ民族文化財団の工芸品展として開催しました。その予算は、当館の展示よりも多くの予算がありました。予算によって、展示をどこまでやるかということはいぶ変わってきます。職員の調査にあたって、関係者の協力も経て、得られた成果を多くの方々に届けたいという中で、ある程度の予算を確保できることが望ましいとは思っています。そこについては、博物館側から道にお願いするだけではなく、機会があれば外部の資金も取り、あるいは、博物館の活動の意義を、道庁の中だけでなく外部の方にもお伝えしながら、博物館にさらなる事業をやってもらうための予算づけをしようという考えを持ってもらう必要もあります。これは、1年2年という短いスパンではなく、中長期的な目標の中で、5年後は博物館の予算はこういう風に変わっている、といったことを目指せば良いと考えています。

小川委員：ありがとうございます。

議題（3）令和4年度アイヌ民族文化研究センター事業経過報告

中村部会長：それでは次の議題にうつります。議題(3)「令和4年度アイヌ民族文化研究センター事業経過報告」について説明をお願いします。

小川アイヌ民族文化研究センター長：資料4「令和4年度 アイヌ民族文化研究センター事業経

過報告」を用いてご説明いたします。

(以下、資料4をもとに説明)

中村部会長：ただいまの報告について、ご意見等ある方は、発言をお願いいたします。

中村部会長：大坂拓「アイヌ民族の塩利用」『日本列島の人類史と製塩』（季刊考古学別冊）とありますが、塩利用について良い情報があるのでしょうか。

小川アイヌ民族文化研究センター長：論文などの形になりましたら、詳細な情報をお出しできると思います。

中村部会長：ありがとうございます。アイヌのオハウが石狩鍋の原点だということについて、この中で分かれば良いなと思い質問しました。

議題（4）令和5年度アイヌ民族文化研究センター年度計画（案）

中村部会長：それでは次に議題(4)「令和5年度アイヌ民族文化研究センター年度計画（案）」について、説明をお願いします。

小川アイヌ民族文化研究センター長：資料5「令和5年度 アイヌ民族文化研究センター年度計画（案）」を用いてご説明いたします。

(以下、資料5をもとに説明)

中村部会長：ただいまの報告について、ご意見等ある方は、発言をお願いいたします。

小川委員：交付金を使つての市町村への巡回展示というのは正しいことだと思います。博物館はお客様に来ていただく「受け」のイメージが強いと思うのですが、それぞれの地域が交付金をもとに予算を獲得して、そこにノウハウのある博物館が協力するというのは、「受け」や「待ち」の博物館ではなく、「出かける」博物館という動きになり、まわりまわって博物館に来てくれる人も増えると思いますので、重要だと思います。積極的に続けてください。

小川アイヌ民族文化研究センター長：ありがとうございます。

白石委員：評価に関することかもしれませんが、展示や巡回展、普及行事などの満足度調査の結果を知りたいと思っていたところ、「要覧」のなかに記載があり、満足度が高いという評価を得ているということがわかりました。このアンケート自体は紙で行っているのでしょうか。

小川アイヌ民族文化研究センター長：基本的には紙で行ってききましたが、コロナ禍になってから道のアンケートシステムも用いて、紙と電子で行なっています。

白石委員：自由記述の項目はありますか。

小川アイヌ民族文化研究センター長：あります。

白石委員：数は少ないのですが、不満、大変不満などの内容についても、自由記述に書かれていることが大きく参考になると思いますので、お伺いしました。

小川アイヌ民族文化研究センター長：「要覧」では抜粋でしか記載がありませんが、自由記述も含め、全て記録として残し、職員への共有もしています。不満とした方などの自由記述の事項も参考にしていく必要があります。

白石委員：アンケート結果の詳細を我々でも見てよければ、委員にも共有していただけると幸いです。

中村部会長：小川委員も触れていましたが、交付金を活用できている市町村は良いが、協会（各地区アイヌ協会）のない市町村などもそういう希望を持っている場合がある。内閣官房と北海道アイヌ協会に、そうした交付金について説明して回る職員を確保してくれという交渉をしています。市町村で、アイヌをどこで扱えばいいか、どういう資料を用意したらいいのか、とい

うのがあれば、博物館の方でぜひ協力をしてください。もし手が回らなければ、北海道アイヌ協会を紹介していただいても構いません。

議題（5）その他

中村部会長：それでは次に議題(5)「その他」ですが、委員の皆様、もしくは事務局から何かございますか。

(特になし)

中村部会長：すべての議題について協議を終えましたので、本日の専門部会は、これをもって終了いたします。ありがとうございました。